

放送番組を通した知識理解の定着の学習デザインの試行

奈良県御所市立秋津小学校 教諭 喜多 宏仁

小学校3年 理科 「ふしぎがいっぱい(3年)」

番組の特徴

番組内で出演者が、野原や町、森などに出かけて、いろいろな「ふしぎ」を見つけたり、実験をしたりする番組である。初めて理科の学習する3年生にとっては理科に親しみやすい番組となっている。

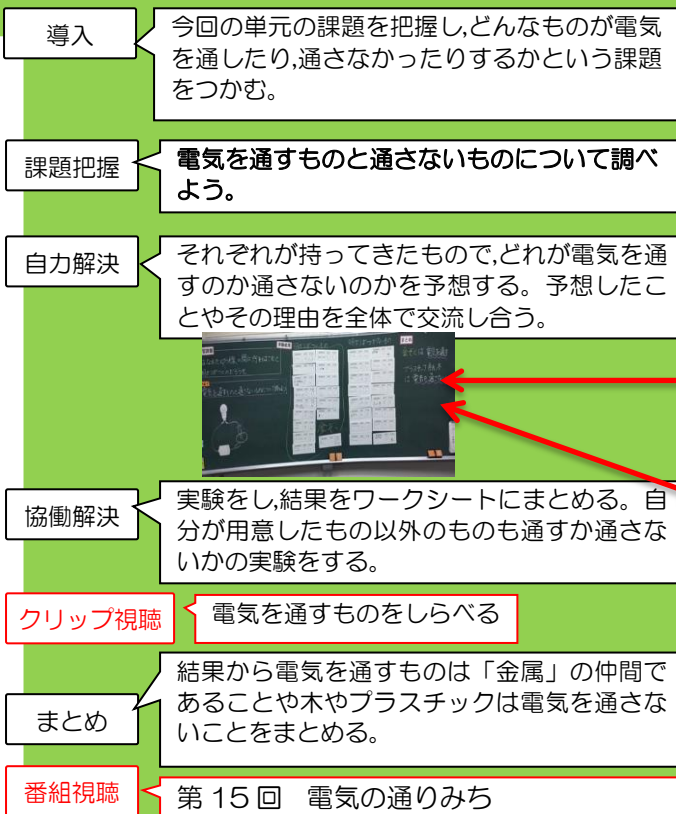
研究の概要

3年生になって、理科は初めて学習する教科である。新しく科学的な言葉などを覚えたり、理解したりしなければならぬことが多くなる。そこで、知識理解の定着を図るために放送番組を活用することにした。その結果、テストの結果では、約7割の児童に知識理解の定着が図られていた。

授業デザイン(1単位授業時間)

単元：電気を通すもの・通さないもの

目標：電気を通すもの・通さないものを調べよう



番組や関連動画クリップの活用意図

理解を深めるための番組

放送番組を視聴することで、実験がうまく成功しなかった児童ために正しい結果を共有することで考察の手助けとし、正しい知識を全ての児童に定着できるように活用する。

言葉の理解を深めるための番組

電気を通すものを「金属」であるということをしっかりと児童に定着させるために活用する。

授業デザインにかかわる教師の工夫

予想をプレートに書く

自分をもって来たものが電気を通すかの予想を各個人に渡したプレートに書く。通すは○、通さないは×、分からない△というふうに分けて書かせる。

予想の共有

電気を通すか通さない、分からないでグループごとに黒板にプレートを貼り、理由を説明できる児童には説明をさせる。

小集団での話し合い活動

グループを作り、予想しにくいや理由が思いつかないなどの時に話し合いって考えをまとめた。また、実験が苦手な児童を手助けするためにグループで実験をさせた。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの授業の様子から

- 楽しく実験をすることができた。
- 興味をもって実験することができた。

評価シートから

- 今回の調査では有意差が見られた項目を見出すことができなかった。

同僚の評価

- 顔を上げて集中して授業に取り組んでいる姿が良かった。
- 実際に実験を行ったが、自分でできる実験は実際にやってみることが大事であるので改めて映像を視聴する必要はあったのか。

実践を終えて〈行動宣言〉

4月当初から「ふしぎがいっぱい(3年)」を視聴しているが、児童は様々な実験映像を視聴して、知識が深まってきたのはテストなどの結果を見るとわかる。しかし、番組に頼りすぎている部分もあり、やはり理科は実際に実験や観察をして知識を深めていくことも大事であると感じた。今後は、番組を効果的に使用する場面の研究を深めていきたい。